

## 黒部ダムから室堂平を巡る (2017 年 10 月 4 日－5 日)

小林信生 (2017/11/19)

これまで、夏には何回か、黒部ダムからその上の室堂平へ上がり、日本アルプスの雰囲気を感じ、雷鳥にも出くわすチャンスがあって感動したが、この次の機会には、秋の紅葉の頃に上ってみたいという希望を持って、その時をうかがっていた。今年は夏から秋にかけてお天気が安定せず、なかなか実行できなかったが、10月4日から5日にかけて天候が比較的に良いとの予報だったので決行することにした。10月4日は白馬村に前泊して、5日朝にホテルを出て、黒部ダムから室堂平を目指す計画を立てた。

5日の朝、白馬村は晴れてはいたが、雲が多く残っており、太陽は恥ずかしそうに見え隠れする。平地でこれくらいでも2000M超の立山連峰はどうなっているか分からない。しかし、せっかく来たのだから、とにかく、現地まで行ってみようと思い、黒部峡谷の麓、扇沢バスターミナルに到着する。

バスの切符売り場で立山山頂のライブカメラを見てもらったら、どんよりと曇っていて、視界は良くなさそうだ。とにかく黒部ダムまでは上ることにして、扇沢とダム間の切符を購入する。扇沢から黒部ダムへはトロリーバスで15分ほど走ると、1454Mの黒部ダムに着く。



(ダム名物の大放水、谷に虹が立つ)



(ダムの展望台に向かったの眺め)

ダムから山頂を見上げると、空は晴れていて、雲も薄く陽も出始めている。「よし！」とばかり、ダムから室堂平までの往復切符を購入して、まずケーブルカーで黒部平へ、そしてロープウエーに乗り換え、大観峰まで行き、さらにトロリーバスに乗って、室堂平(2450M)へたどり着く。三つの乗り物に乗っている時間は全部で正味20分余りだが、一気に1000Mを上ることになる。今年は、黒部ダム工事の最難所・破碎帯の工事が完了して満50年と言う。この難工事が完成したお陰で、今日の我々は立山連峰の高嶺に難なく、立てる幸せを痛感する。



(黒部湖から黒部平まではケーブルカー)



(赤く染まりかけた黒部平)



(2450Mの室堂平、最高のお天気)

室堂平に登ってみると、予期した以上に晴れていて絶好のお天気。何度か訪れた中では、最高のお天気かもしれない。なんだか大もうけをしたような気分になる。また、2450Mの頂上は寒いだろうと思って、完全武装でやってきたが、風はなく、しかも陽光がさんさんと差している。長袖で歩くと汗が出てくる。

約2時間、室堂平を一周、散策する。周辺の山々は、空気が澄んでいてくっきりと見え、もう冬の様相を呈している。雄山を中心とする立山連峰が屏風のようにどんと聳え立っている。室堂平には、数個の池があって、一番大きいのがミクリガ池、二番目がミドリガ池である。この日は、無風状態であったので、二つとも波がなく、水面に映しだされる山影の逆三角形が実に美しかった。



(大きめのミクリガ池)



(後ろの山がきれいに映るミドリガ池)

美しい池のすぐそばに、硫黄臭強い火山ガスを噴出する地獄谷があって、風向きでは人にも害を及ぼすらしく、最近、ガス監視小屋ができたそう。いつも地獄谷の下まで散策が許されていたが、この日は、立ち入り禁止となっていた。



(火山ガス監視小屋と警報機)



(盛んに煙を吐き出している地獄谷)

頂上にある室堂ホテルには、大勢の外国人観光客が来ていて、スイスのどこかの山に登ったのではないかと錯覚するくらいであった。2時間ほどの散策は、とても爽快で、午後2時過ぎに下山開始したが、老人にとっては、最高の散歩コースであった。

素晴らしい景色に圧倒され、適度の運動で心地よい疲れを覚え、下山して暖かい温泉に浸かり、その夜は、ぐっすりと深い睡眠をとることが出来た。秋の立山の散歩は、得難い思い出として記憶に残したい。

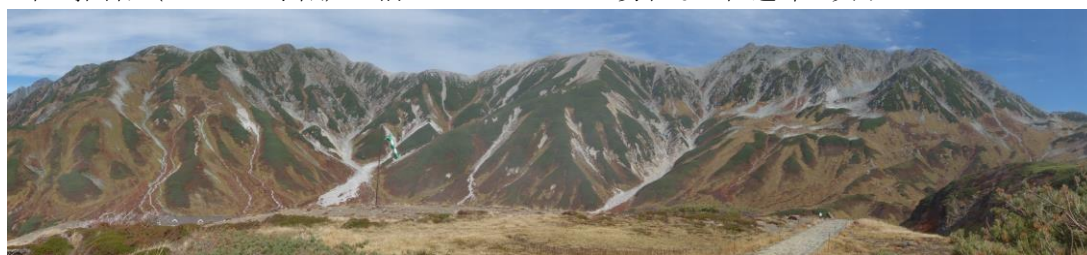
おわり



山崎園谷（カール＝氷蝕）の前で



勇壮な立山連峰に負けじと



(屏風のようにそそり立つ立山連峰に圧倒される)

戻る (ブラウザの左上に戻って下さい。)